



十三小だより

大阪市立十三小学校
学校通信
令和7年 12月

とびら ひら あたら あす
扉を開き、新しい明日へ！

きょう がついたち じゅうそうしょうがっこう かいめ そうりつきねん び ねんご がついたち
今日、12月1日（月）は、十三小学校の99回目の創立記念日、つまり、1年後の12月1日は、
ふしめ かいめ そうりつきねん び
節目となる100回目の創立記念日になります。

じゅうそうしょうがっこう ねんまえ たいしょう ねん がついたち かみつじんじょうこうとうしょうがっこう こじま
十三小学校は、99年前、つまり、大正15年（1926年）12月1日に、神津尋常高等小学校小島
ぶんこう ほんこう ぶんりどくりつ じゅうそうじんじょうしょうがっこう うぶごえ そうりつ かご
分校が本校より分離独立し、十三尋常小学校として産声をあげました。創立のわずか24日後、
たいしょてんのう ほうぎよ げんごう しょうわ かいげん じゅうそうしょうがっこう しょうわ じだい
大正天皇が崩御され、元号が「昭和」に改元されました。したがって、十三小学校は、「昭和」時代
のはじ そうりつ ねん あゆ はじ ごせんじか しゃかいじょうせい
の始まりとともに、創立99年の歩みを始めたといえるかもしれません。その後、戦時下の社会情勢
じゅうそうくみんがっこう せんご しょうわ ねん がつ じゅうそうしょうがっこう さいしゅっぱつ
によって「十三国民学校」となり、戦後の昭和22年4月に十三小学校として再出発しました。そして、
いくど こうしゃ ぞうかいちく こうく かいへん へ こにち すがた いた
幾度となる校舎の増改築、校区の改変を経て、今日の姿に至っています。

そりつ ねん そつぎょう かず にん とちゅうてんしゅつ こ ふく にん こ
創立から99年。卒業生の数は、10,430人。途中転出した子どもも含めると、11,000人を超える
こ まな や れきし きず あ
子どもたちの学び舎として、その歴史を築き上げてきました。

ゆ げ たけんすけ さくし さっきょく がっこう じゅぎょうよう つく おも
ところで、弓削田健介さんが作詞・作曲された（たぶん学校での授業用に作られたものだと思う
うた がっしょくきょく きょく ぼうとう かし のですが）「はじまりの歌」という合唱曲があります。その曲の冒頭は、次のような歌詞です。

ねんまえ こ ぱしょ ゆめ み
100年前の子どもたちも この場所で 夢を見た
だれ えが にじ いま ある ぼく
誰かが描いた 虹のかなたを 今 歩く僕がいる

ねんまえ こ ねんまえ こ しょうらい ゆめ きぼう いだ
100年前の子どもたちも、50年前の子どもたちも、将来の夢と希望を抱
きながら、ここで学び、成長し、旅立っていきました。この歌詞のように、
にん こ えが ゆめ にじ いま めい
10,000人を超える子どもたちが描いた夢、「虹」のかなたを、今の150名
こ ある れきし かん
の子どもたちが歩いているのだと、その歴史をしみじみと感じます。



そして、「はじまりの歌」の最後は、以下の歌詞になっています。

いっしょ とびら ひら あたら あす ゆ
さあ一緒に 扉を開いて 新しい明日へ行こう
ぼく えが にじいろ ゆめ すてき みらい つく
僕らが描く 虹色の夢が 素敵な未来を創るだろう

ねんかん ほ ご し や み な さ ま ち か ら か い ま こ が つ く わ し ん
これからの一時間、保護者の皆様もお力も借りながら、今の子どもたちと、そして4月に加わる新
ねんせい こ き ぼ う み ゆ め え が す て き み い あ つ く
1年生の子どもたちとともに、希望に満ちた夢を描き、素敵な未来を創ることができるように取り組み、
とも じゅうそうしょうがっこう あたら あす とびら ひら おも
共に十三小学校の新しい明日への扉を開けるようにしていきたいと思います。

校長 石崎 厚史